

第6学年C組 社会科科学習指導案

授業者 鈴木 聡
研究協力者 外池 智, 加納 隆徳

1 単元名 調べて発見！大昔の人々の暮らし ～古墳のくにごができるまで～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちは、これまでに先人の業績を時期や時間の経過に着目して、人物の働きを考えることを経験してきた。「歴史と人々の生活」に区分される内容の学習において、第4学年では県内の農業の発展に尽くした石川理紀之助の成し遂げた業績について調べ、苦心や努力が当時の人々の生活の向上や地域の農業の発展に貢献したことを理解することができた。また、第6学年の日本国憲法では、選択した学習課題に基づいて学習を進めたことにより、日本国憲法の基本的な考え方について教科書や資料集だけでなく、図書資料やインターネットも活用して情報を収集し、有用な情報を選んで読み取る力が高まってきている。

その一方で、複数の視点を比較・関連付けて考える力や社会的事象の意味や特色について多角的に考える力が十分とは言えない。また、自分の考え及びそれを支える根拠は妥当であるのかを見つめ、学習問題解決のために必要感をもって調べ直したり考え直したりし、考えとそれを支える根拠を明確にして説明する力を高めていく必要がある。

(2) 単元について

本単元は、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子に着目し、遺跡や文化財、地図、想像図、年表などの各種資料を活用して調べ、大昔の世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解することをねらいとしている。一人一人が選択した学習課題に基づいて追究し、仲間との情報交換を通して、大昔の人々の暮らしの推移やその背景に着目し、大昔の人々の生活や社会の様子が変化した理由について考える。

本単元で扱う歴史上の事象は、縄文時代、弥生時代、古墳時代の3つの時代に関わる。そのため、単元を貫く学習問題の解決には、自分が選択した学習課題を追究するだけでなく、仲間が選択した学習課題も踏まえて総合的に考える必要があるため、仲間との情報交換に必然性が生じる。情報交換の場は、米づくり・指導者の出現・古墳の広がり・大陸との交流などの視点で、自分の考えと仲間の考えを比較・関連付けて考える機会となり、社会的事象の特色や意味について多角的に考える力を高めることにつながる。また、調べ直したり考え直したりしたことを基に、自分の考えを根拠を明確にし、相手に分かりやすく説明する力が高まる姿も期待できる。

これらを踏まえ、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子に着目して、世の中の様子がむらからくにへと変化したことを捉えるという資質・能力を高めることを目指す。

(3) 指導について

本単元で育む資質・能力を高めるために、推移や背景に着目し、狩猟・採集の生活、農耕の生活、古墳の分布などの複数の視点を関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変化について考えるという「見方・考え方」を単元を通して働かせる。

研究の重点(1)との関連から、大きな「選択・決定」の場として、学習課題を「選択・決定」する活動を単元に位置付ける。縄文時代後の世の中の様子の変化に関する疑問が生まれるように、弥生時代の遺跡や古墳に関する写真資料及び想像図を提示し、縄文時代との相違点を問い、本単元で明らかにしたい学習問題を設定する。また、学習問題の解決を支える予想を集団で吟味する場を設け、協働的に追究する上で妥当だと判断したものをいくつかの学習課題として整理する。その上で、自分の予想や追究意欲に基づいて学びを進めることができるように、個々に学習課題を「選択・決定」し、見通しをもつ場を設ける。

また、予想に基づいて追究する過程で、資料から読み取った複数の情報を関連付けることにより、考えが精緻化されていくと考えられるため、予想を見直す活動を位置付ける。さらに、クラゲチャートを活用し、考えと根拠のつながりを可視化することで、根拠を明確にして説明できるようにする。

研究の重点(2)との関連から、学習課題が同じ仲間との情報交換、学習課題が違う仲間との情報交換の場を設定する。一段階目は学習課題が同じ仲間との情報交換の場を設定し、自分の考えやそれを支える根拠が妥当であるのか見つけ直すことができるようにする。二段階目は学習課題が異なる仲間との情報交換の場を設定し、米づくりの広がり、強い力をもつ指導者の出現、古墳の広がり、大陸との交流などの視点で自分の考えと仲間の考えを比較し、自分の考えと仲間の考えをつなげ、複数の視点を関連付けて考えることができるようにする。

3 単元の目標（記号は本校の資質・能力表による）

(1) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子に着目し、世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解することができる。また、遺跡や文化財、地図、想像図、年表などの資料で調べ、項目や順序で整理してまとめることができる。
(7-11・4-25)

(2) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変化を考え、変化の理由を自分なりに説明することができる。
(4-25)

(3) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想を立てたり、自分の学習状況を振り返ったりして、学習問題を解決しようとしている。
(7-4・7・8・10)

4 単元の構想（総時数7時間）※選択・決定を通して、自律的に学習を進めるための支援

地いきの発てんにつくした人（4年）
・変化や背景に着目し、先人の働きを考える

<p>○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」 関連付けたり総合したりし、狩猟・採集の生活、農耕の生活、古墳の分布などの複数の視点を考える。</p>	時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
	1	(1) 縄文時代の人々がどのようにくらししていたのか話し合う。	・縄文時代の人々のくらしの様子に関心をもつことができるように、当時の人々のくらしの様子を想像する場を設けたり、遺跡や出土品の写真資料を提示したりする。	・縄文時代の人々は、協力して狩猟や採集の生活を営んでいたことを理解している。〈7-4〉
	2	(2) 縄文時代から古墳時代までの世の中の様子の変化に着目し、生まれた疑問から学習問題を見だし、追究する学習課題を設定する。 ・米づくりが始まり、米をめぐる争いが起きた。 ・強い力を持ち、むらをまとめる人が現れた。 —学習問題— 古墳時代までの間に、なぜ世の中の様子は変わっていったのだろうか。	・縄文時代後の世の中の様子の変化に関する疑問が生まれるように、弥生時代の遺跡や古墳に関する写真資料及び想像図を提示し、縄文時代との相違点を問う。 ・見通しをもちながら、調べ活動に取り組むことができるように、個々の予想に基づき、学習課題を選択する場を設ける。	・縄文時代の後の生活や社会の様子の変化について、遺跡の資料から読み取った予想し、学習課題を設定し。〈7-7・8〉
	3	(3) 弥生時代や古墳時代の生活や社会の様子について、自分の学習課題に基づいて調べる。	・課題追究のために必要な情報を収集することができるように、活用できる資料の種類や集め方を確かめる。 ・事実を正確に読み取ったり、有用な情報を選んだりすることができるように、読み取り方の手引きを用意しておく。	・生活や社会の様子の変化に着目して、資料から情報を集め、大昔の世の中の様子についてノートに記録している。〈7-10〉
	4	(4) 調べたことを情報交換し合う。	・自分の考えやそれを支える根拠が妥当であるのか見つけ直すことができるように、選択した学習課題が同じ仲間と情報交換する場を設ける。	・考えの根拠を増やしたり、考えを修正したりしている。〈1-25〉
	5	(5) 弥生時代や古墳時代の生活や社会の様子について、自分の学習課題に基づいて調べ、整理する。	・弥生時代や古墳時代の生活や社会の様子が変わった背景を考察することができるように、自分の考えとその根拠をクラゲチャートに整理する活動を取り入れる。	・大昔の世の中の様子が変わった理由と根拠をクラゲチャートにまとめている。〈7-11〉
	6 本時	(6) 調べたことを情報交換し合い、大昔の世の中の様子が変わった理由を話し合う。	・米づくりの広がり、指導者の出現、古墳の出現と広がり、大陸との交流など視点を関連付けて考えることができるように、選択した学習課題が異なる仲間と情報交換する場を設ける。	・大昔の世の中の様子がむらからくへと変化した理由を、複数の視点を関連付けて説明している。〈1-25〉
	7	(7) 学習問題について、自分の考えをまとめる。 ・土地などをめぐる争いに勝ったむらがまわりを従えたから。 ・大陸の技術を取り入れたから。	・学習問題に対する結論を整理し、まとめることができるように、時代区分、生活や社会の様子を視点を提示する。	・世の中の様子がむらからくへと変化したことについて自分なりにまとめている。〈1-25〉

◎本単元で育む主な資質・能力

狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子に着目して、世の中の様子がむらからくへと変化したことを理解する。（1-25）

調べて発見！天皇中心の国づくり

・推移や背景に着目し、世の中の様子を考える

5 本時の実際（6 / 7）

- (1) ねらい 農耕の生活，古墳，大和朝廷（大和政権）による統一に着目し，縄文時代から古墳時代までの間に，世の中の様子がむらからくにへと変化した理由を考える。
 〈イ-25〉

(2) 展開

○省察を通して，自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
3分	① 前時の学習を振り返り，本時のめあてを確かめる。 問題 大昔の日本は古墳時代までの間に，なぜむらから王が治めるくにへと変わっていったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 問題のよりよい解決につなげられるように，考えと根拠のつながりや妥当性に着目するという視点を確かめる。
37分	② 縄文時代後の世の中の様子がむらからくにへと変化した理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 米づくりが始まり，食料を保存できるようになった。食料や土地をめぐる争うようになり，指導者が現れたから。 強い力をもつ指導者は，自分のむらを治めるだけでなく，まわりのむらとの争いに勝ち，従えていったから。 当時の日本にはない大陸の技術や文化を積極的に取り入れ，くにづくりを行ったから。 強い指導者は古墳を築くことで力を示し，支配を広げていったから。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄文時代後の世の中の様子の変化について，複数の視点を関連付けて考えることができるように，学習課題が異なる仲間との情報交換の場を設け，事前にグルーピングしておく。 考えと根拠のつながりを吟味し，考えや根拠が妥当であるか検討することができるように，クラゲチャートを活用して説明する活動を取り入れる。 問題解決のためのキーワードを見いだすことができるように，情報交換で出された考えの共通点や関連する点をホワイトボードに整理し，全体で比較検討する活動を取り入れる。 ○縄文時代後の世の中の様子の変化について，米づくりの広がり，強い力をもつ指導者の出現，古墳の広がり，大陸との交流などの複数の視点を関連付けて考えることができるように，古墳時代までの社会に変化をもたらした歴史的事象の中で，相互につながるものはないか問いかける。
5分	③ 本時の学習をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 王が治めるくにへ変わったのは，米づくりが広まり，食料や土地道具などをめぐる争いが起きたため。指導者は争いに勝ち，まわりのむらを従え，王となりくにをつくった。 王が治めるくにへ変わったのは，大陸の技術や文化を取り入れたため。各地の王や大和朝廷も，大陸と交流し，くにづくりに役立てた。その力の大きさが，墓である古墳から想像できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決には複数の視点を関連付けて考えることが重要であることを実感することができるように，参考になった友達の考えや，友達の考えとつながったことを紹介する活動を取り入れ，価値付ける。 ○本時の問題に対する自分なりの考えを再構成することができるように，本時の学びを整理する場とクラゲチャートを修正する場を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 大昔の世の中の様子がむらからくにへと変化した理由について，米づくりの始まり，強い力をもつ指導者の出現，古墳の広がり，大陸との交流などの複数の視点を関連付けて自分なりに説明している。 〈イ-25〉（発言・ノート） </div>